

熊本大学産婦人科研修プログラム

プログラムの概要と達成目標

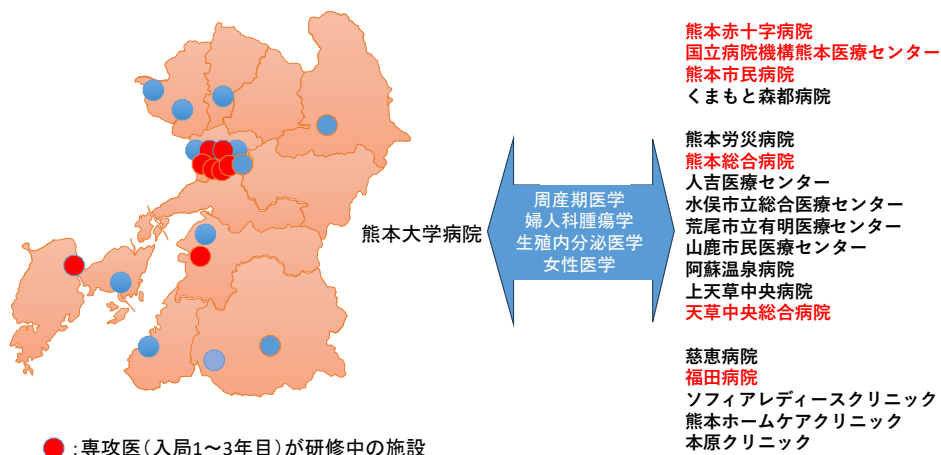
産婦人科専門医は産科婦人科領域における広い知識、錬磨された技能と高い倫理性を備えた産科婦人科医師です。産婦人科専門医には、生殖・内分泌領域、婦人科腫瘍領域、周産期領域、女性のヘルスケア領域の4領域にわたり、十分な知識・技能を持ったうえで、以下のことが求められています。

- ・ 標準的な医療を提供する。
- ・ 患者から信頼される。
- ・ 女性を生涯にわたってサポートする。
- ・ 産婦人科医療の水準を高める。
- ・ 疾病の予防に努める。
- ・ 地域医療を守る。

熊本大学産科婦人科は、関連病院とともに地域医療を守りながら多数の産科婦人科医師を育ててきました。「熊本大学産婦人科研修プログラム」は、この歴史を継承しつつ、連携施設とともに新専門医制度に合わせた形で産婦人科専門医を育成するためのプログラムとなっており、以下の特徴を持ちます。

- ・ 高度医療から地域医療まで幅広く研修を行える研修施設群。
- ・ サブスペシャルティー領域までカバーする、豊富で質の高い指導医。
- ・ 基幹施設と連携施設による、診療・教育・研究への強力なバックアップ。
- ・ 質の高い臨床研究、基礎研究、学会発表および論文作成の指導。
- ・ サブスペシャルティーへの円滑なステップアップ教育システム。
- ・ 出身大学に関係なく、個々人にあわせて、きめ細やかに研修コースを配慮。
- ・ 女性医師も継続して働けるように、労働環境を十分配慮。

熊本大学産科婦人科と連携施設による横断的研修システム



基本的に1つの連携施設に6～12ヶ月間勤務し、入局3年目の専門医取得までにすべての領域を修練できる体制を整えています。

専攻医の評価時期と方法

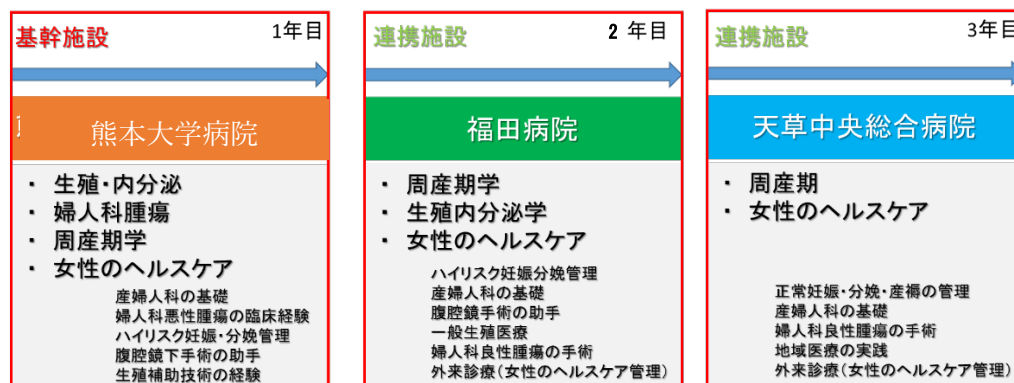
*到達度評価

研修中に自己の成長を知り、研修の進め方を見直すためのものです。当プログラムでは、少なくとも12か月に1度は専攻医が研修目標の達成度および態度および技能について、Web上で日本産科婦人科学会と日本専門医機構が提供する産婦人科研修管理システムに記録し、指導医がチェックします。態度についての評価は、自己評価に加えて、指導医による評価がなされます。なお、これらの評価は、施設を異動する時にも行います。それらの内容は、プログラム管理委員会に報告され、専攻医の研修の進め方を決める上で重要な資料となります。

*総括的評価

専門医認定申請年(3年目あるいはそれ以後)の3月末時点での研修記録および評価に基づき、研修修了を判定するためのものです。自己・指導医による評価に加えて、手術・手技については各施設の産婦人科の指導責任者が技能を確認します。分娩150症例、執刀医として帝王切開30例、単純子宮全摘出術10例をはじめとして数多くの手技・処置の経験が必要になります。これらのノルマをこなすべく、熊本大学病院に加えて連携施設での研鑽を行いながら、周産期、生殖内分泌、婦人科腫瘍の知識・経験をまんべんなく習得できる環境を整えています。専攻医は専門医認定申請年の4月末までに研修プログラム管理委員会に修了認定の申請を行います。研修プログラム管理委員会は5月末までに修了判定を行い、研修証明書を専攻医に送付します。そして専攻医は日本専門医機構に専門医認定試験受験の申請を行います。

研修パターン例1)



研修パターン例2)

